

6月19日の総会・臨時理事会で日本コンストラクション・マネジメント協会の会長に川原秀仁氏（山下PMC社長）が就任した。多様な発注方式の導入とともに公共事業でもCMが急速に広がりを見せる中、「CMを建設生産の『当たり前』に」とさらなる普及拡大に全力投球する構えだ。2021年4月には設立20周年を迎える協会のかじ取りを聞いた。



——就任の抱負は

「まずCMを日本全国津々浦々まで浸透させ、CMが建設生産の『当たり前』になるまで、たゆまぬ普及促進活動を継続・強化していく。あわせてCMの存在価値、地位の向上と会勢の拡大を図ってほしい」

「協会はCM事業者のみならず、建設産業にかかわるさまざまな立場の人たちにCMの概念を知ってもらったための協会であり、発注者や受注側

新会長に聞く

の設計者、施工者、専門工会社からも参加できるスキームにしたい。発注者と受注者、そして社会も幸せにするという『三方良し』がCMの精神であり、プロジェクト自体を合理的により良くするCMを

CMを「当たり前」に

普及させることで共通の価値をつくり上げたい」

——重点的に取り組む活動は

「各グループ・各委員会相互の連携を強化し、連動して活動していくことが重要だ。例えばホームページや機関誌などこれまで個別に実施していた広報関連活動を結束させ、効果的で総合的なマーケ

ティング戦略として協会活動に組み込んでいきたい」

「CMの普及と発展を目指す上で担い手を育成し、裾野を広げることも大事だ。資格制度の拡充とともにCMスクールや各種講演会など教育・会員サービスの充実を図り、蓄積してきたノウハウ、情報を提供してCMの本質を伝えたい。事業者名簿も常にブラッシュアップした状態で自治体などに周知したい。支部空

プロジェクト推進技術が問われている。同時に、いろいろなモノをつなげるハブ役となって新たなセールディビティ（思いがけない発見）をもたらすのがCM本来の機能だった

が、いまオンラインと現場のリアルをどう効果的につなぎ合わせ統合していくか、プロジェクトの道先案内人であるCMがその役割を担うべきだと思っている」

——21年4月に設立20周年を迎えるが

白地帯となっている北海道、中国、四国、沖縄での支部創設も目指していく」

——コロナ禍の影響は

「グローバルサプライチェーンの再編によって製造業を中心に日本帰りの動きが加速しており、それに対するCMのソリューションが求められている。働き方でもオンラインビジネスを取り入れたプロ

年を迎えるが

「記念行事として来年6月18日の総会を記念総会とし、記念事業としてシンポジウムも予定している。この20年でカスタマイズされ、洗練されてきた日本ならではのCMの良さをしっかりPRしていきたい。国土強靱化への対応を含め、CMが期待される領域は広がっている。需要が増え

ればまずと会員も増えて会勢拡大につながっていく。そういった化学反応が起ころうに協会として効果的な活動を展開していきたい」

（かわはら・ひでひと）1983年日理学部建築学科卒業、同年農用地開発公団入団。農林水産省、国際協力事業団を経て91年山下設計入社。99年山下ピー・エム・コンサルティング（現山下PMC）に転籍、2005年取締役統括部長、08年常務を経て12年12月から社長。佐賀県出身。60年2月28日生まれ、60歳。

記者の目

山下PMCの創業メンバーとして参画し、国内のPM・CM技術の礎を築いた一人。クライアントの「施設参謀」として、事業創造や事業戦略の策定支援、CRE（企業不動産）/PRE（公的不動産）戦略を担うフリー領域の総合マネジメント業務を展開している。会長選任を「大々的にCMを普及しなさい」という天の声」と受け止め、「まず結果を出さなければ」と意気込む。その豊富なアイデアとバイタリティーあふれる実行力に期待がかかる。

